

求める会ニューズ No. 955

7月全体会報告

7月18日(水) 10:00~12:30

検討事項

1、地域集会報告(内容は3~5ページ参照)

- ・(集会に参加した会員系の感想) 久しぶりの会員にも出会えて、地域集会は続ける方がいいと思った。物品の購入をしていなくても求める会を大事に考えている人がいるんだということがよく分かった。野菜に関する苦情などを聞いていると、提携という関係がよく分かっていないのではないかと思えてきた。
- ・大野さんからPGSについての情報提供があったが、求める会としてどうするかは別問題、求める会は求める会として考えていくべきだとの意見もあった。

2、秋冬野菜の作付け表について

- ・7月21日(土)、作付会議と圃場見学。小浦、岡部、岡、飛田、花岡、西、小島、今田が参加。
- ・昨年比マイナスになっているものが多いが、作りすぎて廃棄になっているものもあり、出荷体制に影響はない。
- ・(主な意見、注文) 九条ネギと重ならなければ、小ネギもほしい。パプリカは難しいというが、できれば作ってほしい。白菜やキャベツ、カボチャなど、数がない時には、冬瓜のように切っけて出してくれてもいいのでは一など。

3、「おいしいね！」が育てる元気パート3の活動計画について

- ・10月1日の味噌開きの日に、大徳醤油の醤油作りキットを用意して、参加者にも作ってもらう計画。来年2月には味噌作りをする。
- ・収穫感謝祭を生産者と消費者が出会える場として企画してもらえれば良いと思う。

4、収穫感謝祭をどうするか?

- ・日程は11月17日(土)に決定。
- ・(主な意見) 収穫感謝祭にエネルギーを使わず

会の今後をどうするかに力を注ぐべき。ご飯、みそ汁、漬物のセルフサービスにはどうか。市島の野菜を使うところに意味があるので、豚汁はあった方がよい。高齢者がセルフサービスで熱いものを運ぶのは危ない。

報告事項

【生産者担当】

- ・野菜 畑のようす：西日本豪雨で、一色さん、橋本さんの畑も、キュウリ、トマト、ナス、ズッキーニ、オクラ、万願寺が水に浸かって腐ったり、水が引いた後の高温多湿で病気や虫の発生などでこれからが大変だとのこと。橋本さんの倉庫にも土砂が流れ込み、ジャガイモが水に浸かった。今年はカボチャがイノシシにやられず豊作だと一色さんは喜んでいましたが、雨で半分は全滅、残りを何とか届けたいとのこと。
- ・卵：橋本さんの鶏舎に水が入りぬかるんだため石灰を撒いて整備。青垣の足立さんは水の被害なし。
- ・米：山すそにある池野さんの圃場や水路に山からの土砂が流入し大きな被害を受けた。4年前に豪雨被害を受け、年月をかけて整備された圃場だった。高木さんの大豆畑にも水が入り撒いた種が流れてしまった。畑が乾いてから種を入れ足すとのこと。

【会員担当】会員数 213名(3名退会、1名入会)

【事業部担当】ワカメの生産者が全員辞めて8月が最後になる。7月1日、灘チャレンジに出店。

【広報・庶務担当】7月25日(水)午後からニュース8月号の印刷

【学習研究担当】大豆畑トラスト 申し込み口数 95人(高木さんに72、永菅さんに23)。永菅さんの畑の種まきに求める会から小浦、福本、近藤、六渡さんが参加(全参加者54人)。

【渉外担当】・6月30日 みんなの低温殺菌牛乳協会第4回定時総会

・7月14日 オーガニックフィルム&マルシェ
2018～未来の食卓へタネをまく～ 求める会
から12名参加。

お知らせ 8月の部会、全体会、セミナーはありません。

食料環境セミナー報告

「原発事故後を生きる私たち」

6月27日(水) 10:30～12:00

いわきの初期被曝を追及するママの会

代表 千葉 由美さん

千葉さんは、原発事故までは自然療法を学び、庭で植物を育てて自分家の薬箱を作り、そのことをテーマにお母さんたちと講座を開くなどして穏やかな暮らしをされていました。未曾有の原発事故後は、授業参観・懇談会の前に有名な先生の講演会が開かれ、チェルノブイリの原発事故では母親たちが神経質になりすぎて子どもたちがダメージを受けたことが最も問題だったということが盛んに話され、まるで危機意識を持っている人に精神的な問題があるのではないかと思わせるような世間の風潮に、危機意識をもたれました。除染が終わり、環境は元に戻りました。命と健康より復興が大切だとでもいうような環境の中で子どもたちを守るには、お母さん同士が繋がらなきゃと思われたそうです。

2013年に「いわきの初期被曝を追及するママの会」を立ち上げ、測定プロジェクト「TEAM ママベク子どもの環境守り隊」と、カフェプロジェクト「ママ café まもみーる」で活動されてきました。みんなとは違う選択をすることは勇気のいることです。孤独に陥らないようにお茶会や食事会を開き、心を繋げてきたそうです。

国は福島産物に対するダメージを回復するために、給食で地産地消の食材を使うことを推し進めました。給食に地元産の物を使う自治体には補助金を出すなどして安全性をアピールするために、子どもたちを犠牲にしたのです。給食の地産地消に待ったをかけるための活動は、理解されることなく、歩く風評被害などと後ろ指をさされたりしましたが、

活動が実ることではなく、子どもたちを守るためにお弁当を持たせるなどの努力をするしかなかったのです。

同時に、幼稚園、保育園、小学校、中学校などの子どもたちの環境の放射線量を測定し続けています。感情論ではなく実害であることを示すために、測定の結果をまとめ実測値をもとに新たな形での申し入れをしてきました。教育委員会、原子力対策課との協議の場にこぎつけ、教育委員会から測定の許可を得ることができて、測定を始めて5年、神経質な母親という偏見はだいぶ取り除けたそうです。こうした活動によって国の予算で子どもの遊び場除染事業が立ち上げられ、いわき市でもホットスポットファインダーが購入されましたが、除染の基準は国の基準を超えるものに限るそうです。

山の法面は、除染しても除染しても線量が上がるそうです。立ち入り禁止などの看板やロープの設置は申し入れても実行されず、そればかりか、原子力委員会の決定事項として、子どもたちの環境からのモニタリングポスト撤去が決められました。千葉さんたちはモニタリングポストの継続配置を求める市民の会を立ち上げ、要請書を提出。要請書の「決定の権利は私達に持たせてほしい」という一文には、原発を推進してきた加害者である国に、被害者である私達がなぜ従わなければならないのかという悔しさや憤りが込められています。

最近の国の強引なやり方には目に余るものがあり、国民の思いとは真逆な事ばかりが決定されてしまう現状ですが、西郷村がモニタリングポストの継続配置を求めることを委員全員の賛成で決定したことはささやかな希望の光に思えました。問題を問題として認識し小さな努力を継続することの大切さを教えられました。(松浜 G 東山 真紀子)

初夏のつどい報告

芦屋・西宮・尼崎地区

日時・場所：6月28日（木）10時～12時

参加者：大野代表（潮見）、岩本（松並）、西（武庫之荘）、中尾（住吉本町）、東山、尾園（松浜）明松（都由乃町）、岡部（センター）、木下（広田町）9名

自己紹介に始まり、大野代表から、配送をお願いしている「あしの会」の商品への注文の協力を求める話が出されたことから、そもそも「あしの会」って？に始まり、その商品はどんな基準、チェックで選ばれたものなの？など解らないままで受け止めている現状がわかりました。会報で少し詳しく会員に解説してほしいと本部員に提案しました。

次いで、最近話題になっている **PGS (participatory guarantee systems)** について大野代表から日本での取り組み等について説明を受けました。**国際有機農業運動連盟 (IFOAM)** の中の制度で、日本の **JAS** と異なり、個人農家が手続きも簡単で、費用も比較的安価で会員にとなれるため、兵庫県有機農業研究会が加入している日本有機農業研究会がマークを作り、近く国内で普及スタートさせようとしているそうです。これを普及させることで、有機農家への認識が大きく広まることが期待されているとのことでした。マークが決まり活動が始まったら勉強会をしたいものです。
(広田町 G 木下洋子)

垂水・須磨・西地域

日時・場所：6月29日（金）1時～3時 レバンテ垂水 2F 会議室

参加者：大野代表、加藤、坂本、藤城（つつじヶ丘）・奥山（桃山台）

田中（北須磨 C）・中島（北須磨 D）・飛田（鶴甲団地）高橋（ジェームス山）10名

会員係からの要請もあって、出来るだけのグループに電話をして参加をお願いしたが、出席者はいつもの顔ぶれだった。最近、いつも元気に出席していた会員が病気などで亡くなっていたりして集会が寂しくなった。

話題はいつも必ずまず、最初に野菜の苦情が出る。（茶色の野菜、まっ黒の野菜など）、プロ意識を持ってほしいの一言だ。

グループの近況と配送費の不安を助けてもらっている「あしの会」についてどれくらい関心を持っているかを聞いた。高齢者になり求める会の購入品で間に合っていて、求める会用のカタログをもらってもまだあまり購入していないという人、あしの会のカタログが欲しい、他の会にも入っているので、これ以上はいらぬ、バターを購入しているなどの意見があった。また端境期にあしの会の野菜が届いたが（ごぼう、玉葱、じゃが芋）感激するほど良かった、いう声もあった。ガソリン代の高騰により運送費が高くなっている昨今、あしの会の運営が順調に進んでくれるとお互いに助かる、等々。

地域集会は全体会と異なり、ざっくばらんに色々と話が出て、気楽に話し合え親しみが増す集まりだ。
(ジェームス山 G 高橋京子)

明石・加古川・高砂地区

日時・場所：6月30日(土) 10:00~12:00 アストア明石 702号室

参加者：藤原・三木(高砂G)、嶋野(朝霧G)、六渡(東仲ノ町G)、村川・庄谷(大久保G)、小原(加古川東G)、明松(会員担当)、大野(代表) 計9名

まず会員担当の明松さんが、あしの会のカタログ配布のことについて説明されました。出席者の皆さんはよく理解されていて、8名のうち6名がすでに口座を作っておられ、乳製品、練り製品など購入しているそうです。

「配送でお世話になっているので、これから品物も」という人、「発泡スチロールに保冷剤が入って一品だけは申し訳ないので、なるべく今回は冷蔵、今回は冷凍など決めて何品か注文するようになりたい」という人も。三木さんは、現在関東方面に介護に通っておられるので、求める会で注文はされていないが、ニュースは毎号読んでいるとのことでした。

求める会は、根っこが勉強と物品購入との両輪になっているから続いている、買うことで生産者を支えることが私たちの活動であることが日常的に浸透している、求める会をどうするかについては、「やれるところまでやる」に異論はなかったです。

次に大野さんから日有研が進めようとしている PGS について説明があり、「この生産者だったら心配ない」ということを消費者が保証するシステムであり、信頼関係が根本に必要で、提携を大切にしようとしている、ということは理解でき、その後いろいろ質問も出ましたが、日有研と兵有研の関係が意外だったのでその点では頭の中をリセットする必要がありました。

(加古川東G 小原恵子)

中央・灘・東灘 地区

日時：7月4日(水) 10:00-12:00 場所：神戸学生青年センター

参加者：福本(本一)、大野(代表・潮見)、近藤(逆瀬川)、山崎(赤松)、茂松(センター)、吉川(青谷)、小浦(鶴甲)、鹿嶋(親王塚)、山下(御影山手)、飛田(鶴甲)、岡部(センター) 合計 11人
年度初めの交流と言う事でこの初夏の集いです。初めに年間行事のお知らせがありました。

話し合いの議題はあしの会への協力依頼を会員係から、PGS 参加型保障制度の説明を大野代表からですが、最初に求める会の事でもなんでも、と皆さんに順次一言伺ってから始めました。

家の事で時間が一杯だけど出来るだけ求める会の集まりに参加したい。求める会はやっぱり楽しい。あしの会配送でまずは赤字問題も解決、が会員の高齢化、退会者もありこれから先求める会がどうしていくのか不安。あしの会の説明等を聞き、お互いに協力関係を保っていくのも良いかと思うようになった。認知にならないよう体操も大事だが仲間とワイガヤ愉しく話をするのが一番。

野菜についても昨今のクレーム(固い、大きい、新鮮さが無い)も色々でました。配送日に合わせての収穫が問題を引き起こしているのか? 生産者の気持ち=求める会は何にも代えられない存在、今までの繋がりを感謝、これからも精いっぱい頑張る、との生産者の声は生産者担当が聞いています。お互いにより理解しより良い信頼関係を続けましょう。(やっぱり美味しいんですよ市島の野菜!)

先日の大豆トラスト、新生産者永菅さんの種まきイベントは援農というより楽しいイベント、レジャー感覚で、若い人たち、子ども、家族が元気に愉しんでいた。参加した求める会の4人も裏方お手伝いとかで十分にベテランぶりを発揮。会の歴史を知って貰う機会にもなった。奥谷さん(あしの会)の他団体をサポートする思いも良く解った。——というように皆様からフリーにいろんなお話を聞くことが出来ました。

(センターG 岡部 真理子)



初夏のつどい（地域集会）報告

兵庫・北区・長田地区 7月5日（水）13:30～15:30 会場：湊山地域福祉センター

出席者：大野（代表）、飛田（鶴甲団地）、岡（西山町）、岡本（下山手）、前川、陶木（夢野町）、明松、稲井、門間、藤木、金山、花岡（都由乃町） 11名

この日は、この地区大雨で避難勧告が出ていたにも関わらず、小雨になったので集会を決行した（いささか、無謀でありました）。

まず、飛田さんから、来年の総会までの求める会の行事日程をお聞きしました。次に配送を依頼している「あしの会」について、「あしの会」は会の理念がしっかりしている事、商品の吟味がされている。配送だけでなく、少しでも注文も協力したいということで、話し合いました。

今購入しているのは4名ですが、求める会にない物、バター、チーズ、茎ワカメ、練り物等を購入しており、塩味も少なく後味が良いと好評です。他の団体にも入っている方もあり入会は無理、家族が少なくなり多くは食べられなくなった、とそれぞれ事情もありますが、商品に関心がありましたら、申し込んで欲しいとお願いしました。

PGS（参加型保証制度）について、大野代表の説明がありました。今の有機の認証を得るには、時間、費用、書類作成の時間が負担になり、若い生産者には取りにくい。そのため日本有機農業研究会が提唱した制度で、新しい生産者が認証を取っていない場合はPGSの保証があったほうが信用の保証になるということで、近く、国内でスタートさせる予定だそうです。（少々難しかった。）

さて、次世代にこの運動を伝えるのは難しい、聞いてくれない等の意見に対して、若い世代は自分の中にはそれなりの理念を持っているが、感性の差があり、有機ではなく、オーガニックと言ったほうが解ってもらえるそうです。あせらず、ひるまずで行きましょう。

（都由乃町G 花岡桂子）

宝塚地区 7月10日（火）10:00～12:00 会場：宝塚教会会議室

出席者：多胡、大森、武内、船木、福井、信長、片山（以上逆瀬川G）、中川（中山G）、大島（平井山荘2G）、児玉（売布G）、今田（亀井町G）、飛田（鶴甲G、会員担当）、大野（潮見G、代表）

会員担当の飛田さんから今年度の求める会のスケジュールについて説明があった後、会や野菜に関しての感想、意見を述べあった。

卵が割れていたことについて、殻が柔らか過ぎるが原因が知りたいとの意見、プラスチックが地球環境に与える害が問題になっているので、卵も紙パックに変えることはできないのかという意見、ミニトマトがかびていた場合、かびているトマトを取り除くだけで安全なのか、全体を廃棄すべきなのか教えてほしいという意見、大根、キャベツが硬すぎたというクレームがあった。しかし、7月初旬の大雨の被害について大野さんから報告があると、野菜の不作はほとんど異常気象が原因なので、クレームを言うのも気の毒に思うという意見もあった。

配送費維持のために「あしの会」のカタログの品物を購入することに協力してほしいということに関しては、概ね理解があった。



逆瀬川Gは交代で仕分け作業をしているが体を壊す人が相次いで、この態勢を続けるのは2年ももたないのではという話が出ている。将来的には個配にしてもらえないと思うが、「あしの会」の配送は個配が可能なのかという質問もあった。

PGS（参加型保証制度）について、大野さんから解説があった。求める会にとってPGSがどういう意味があるのか理解しにくいという意見が出たが、大野さんの説明で了承された。

（亀井町G 今田 裕子）

8月のカレンダー



8月20日（月）自動引き落とし日
共同購入申込締切日

※8月の全体会、食料環境セミナーはありません

求める会事務所・学生センターお盆休み
8月13日（月）～8月15日（水）

熱中症に注意！

かつてない猛暑が続いています。よい睡眠と、求める会の野菜、果物、お肉、干物等で元気に乗り切りましょう！

ひょうご大豆畑トラスト運動2018に参加して

参加者 小浦、福本、近藤、六渡

梅雨の最中、今は晴れていても、お天気はどうかと心配しながらイベントの集合場所へ。

そこに集まっていたのは、小学生や幼児を連れた家族連れ約50人と10台を超える車。

永菅さんの畑へは、彼の車を先頭に10数台の車の列。地元の人も驚いたでしょうね？

畑に着いて、今日のイベントの流れや作業の方法を聞き、その後、種まきを始めました。親子連れが畑の虫を捕まえたり、土の感触を確かめたりするのをしり目に、求める会のメンバーは一人が鍬を持ち穴を掘り、二人目が種をまく、三人目が土を掛けると手際よくどんどん作業を進めました。あっという間に三畝完了。「イベントだしね。こんなもんかな。」と力を持て余し気味でした。

昼食会場に着いてから、お味噌汁作り、昼食の準備のお手伝い、と今度は求める会の出番でした。残念ながら、子ども向けの自然学習講座を覗く時間はありませんでした。

昼食は「棚田の無農薬米」、トラストの無農薬大豆で作った「納豆」、トラストの無農薬大豆で仕込んだ「味噌」の味噌汁、トラストの無農薬大豆で作った「ひややっこ」、とトラスト大豆のオンパレード。自然な環境の中で身体を動かした後のごはんは何物にも代えがたくとても美味でした。

参加した子供たちの食欲も旺盛で、三杯目をお代わりする子どもも出現。

トラスト運動初参加の永菅さんと初対面にもかかわらず、古くからのお付き合いのような気持ちになりました。参加者は本当に幅広く、経験深そうな年配者からお母さんに抱かれた赤ちゃんまで。大豆トラストがこんな風に幅広い方々に支持され、広まればいいなあと思います。

これから収穫までには、草抜きなどのお手伝いも必要です。立派な大豆が育つよう、そして立派な大豆生産者になっていただけるよう応援していきましょう。



フェイスブックより

畑の様子はフェイスブックで情報提供されるようですので、楽しみです。

秋には市島町の高木さんの圃場で「枝豆収穫祭」（9月30日（日）開催予定）、市川町の永菅さんの圃場で「大豆収穫祭」（11月25日（日）開催予定）。

（東仲ノ町G 六渡和香子）